

令和5年度 長田小学校の取組み

1 研究主題名

自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～英語学習における指導の工夫を通して～

2 研究主題設定の理由

新学習指導要領では、外国語科・外国語活動について目標と内容、指導について示された。小学校段階では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動を通してのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指すことが目標となっている。中学年では、「聞く・話すこと」を中心とし、高学年では、「読むこと」「話すこと」「書くこと」を通して指導することになる。

本市においては、英語特区であることから、低学年における外国語活動の実施が可能であることから、低・中・高学年における指導の工夫や学びの連続性についての研究、児童が自習的にコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するため研究が必要であると考え。英語の授業でALTやJTEの英語に慣れ親しみ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎的な技能を身に付けるようにする。そのために必要な指導方法の工夫について研究を進めていく。目標として、以下を掲げる。

- (1) 日本語との違いに気づき、英語を聞くこと、読むこと、書くことに慣れ親しみ、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けさせる。
- (2) 身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに自分の考えや気持ちを伝えることができるようにする。
- (3) 外国語によるコミュニケーションを図る基礎と資質を育てる。

3 研究の主な内容

(1) 外国語教育における主体的な学びの態度の育成

外国語教育における学びとは、外国語を学ぶことや外国語でコミュニケーションすることであることから、以下の4点に留意しながら授業を行っていった。

- ① 外国語を学んだり、外国語を用いてコミュニケーションを行ったりすることに興味や関心を持たせること。
- ② 生涯にわたって外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、学んだことを生かしていくことを意識させること。
- ③ コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定したり理解したりして見通しをもって粘り強く取り組ませること。
- ④ 自らの学習やコミュニケーションを振り返り、次の学習につなげるようにすること。

(2) 聞くこと・話すことを充実させた授業づくり

発達段階に応じた各学年の目標を設定し、系統的・連続的な指導を通して、学習内容の定着を図りながら達成感を味わわせ、学習意欲を高めていくようにした。

【低・中学年】

- ・ ゆっくりはっきりと話す……外国語の音声や簡単な語句、基本的な表現に慣れ親しませる。
- ・ 「やりとり」を意識……まねることから、サポートを受けて身近で簡単な事柄についての伝え合いに転換し、できたという達成感を持たせる。

【高学年】

- ・ ゆっくりはっきりと話す…具体的な情報を聞き取ることと、短い話の概要を捉えることができるようにする。
- ・ 「やりとり」を意識……………それまでの学習や経験で蓄積した英語で話す力・聞く力を駆使して、自分の力で質問したり、答えたりすることができるようにする。

【全学年共通】

- ・ 生活や習慣、行事等との関連……………日本語も含めた様々な言語そのものへの理解や言語の背景にある文化に対する理解を深められるようにする。
- ・ 活動・学習形態の工夫……………ペア・グループ・学級全体と工夫することで、自己理解・他者理解を深め、コミュニケーションの楽しさを実感できるようにする。
- ・ 教材・教具の工夫……………視聴覚教材や ICT を効果的に活用することで、学習への興味・関心を高める。

(3) 指導方針

- ① 4月に全職員で外国語活動及び外国語科の進め方を共通理解し、ALT 及び英語専科指導教員 (FT) とティームティーチングによる指導について確認する。
- ② ALT 及び英語専科指導教員 (FT) も含め、各学年で年間指導計画を確認し、必要に応じて見直しを行う。
- ③ 全学年の児童が ALT と交流できるよう、前半 (4～10月) と後半 (11月～3月) で担当学年を分けて指導に当たる。
- ④ 各学年で授業の打ち合わせの時間を毎週設け、ALT 及び英語専科指導教員 (FT) と共に授業の内容と進め方を確認する。
- ⑤ ALT・JTE 及び英語専科指導教員 (FT) と学級担任は、授業においてその役割を明確にすることで、児童の学習への意欲付けを行う。
 - ALT・・・コミュニケーションの相手、ネイティブ・スピーカーとしての英語力
 - 英語専科指導教員 (FT) と学級担任・・・授業のコーディネーター及びデザイン

4 研究の成果と課題

第3学年 学習指導案 Unit7 This is for you. カードをおくろう

本時の学習【2/5 時間】

(1) ねらい

形の言い表し方に慣れ親しむとともに、欲しいものを表す表現を知る。

(2) 本時の評価規準 (指導に生かすための評価)

評価の観点	知識・技能、学びに向かう力、人間性等
評価規準	“What do you want?” “～, please.” のフレーズに形や色の単語を組み込んで話したり、聞きとったりしようとしている。
評価方法	授業内：行動観察 授業後：ふりかえりシート

(3) 「めざす子どもの姿」の実現に向けた授業改善（発問など授業の工夫）

場面	工夫点	めざす子どもの姿
【導入】 Small talk 課題を把握する。	HRT と ALT のやり取りは英語だけだが、既習単語やジェスチャーを盛り込む。	新出表現の中にある既習事項から、これまでの学習を想起し、やり取りの内容を想像する。
【展開前段】 chant デジタル教材を観て、音声を聞いたり発したりする。	声を出すことを意識させ、発語と聞き取りを連動して練習させる。	新出表現にふれ、活動の見通しを持つ。
【展開後段】 Lucky card game 児童がやり取りに慣れてスピードが上がる、やり取りが難しく戸惑う等、全体の雰囲気に変化する。	段階的にルールを複雑化させたり、児童の様子を見て適宜全体指導を入れたりする。	友達とのやりとりで、トライアンドエラーを積極的に繰り返しながら、表現方法のパターンに気付く。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全5時間） ○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価

時	ねらい・学習活動 目標 (■) ・主な言語活動等 (丸数字)	評価規準			評価方法及び 支援が必要な児童生徒への手立て
		知技	愚昧	態度	
1	■日本語と英語の音声の違いに気付くとともに、形や身の回りの物を表す言い方を知る。 ①シェイクイズ デジタル教材 ②ポインティング・ゲーム p. 26, 27 ③Let's Watch and Think p. 28 (「Thank you カードの作成」をすることで「見通しを持つ」)				○形の言い方を聞いたり言ったりしている。 【行動観察・振り返りカード】
2 本時	■色や形など、身の回りの物の言い方に慣れ親しみ、欲しいものを尋ねたり答えたりする。 ①ミッシングゲーム p. 28 ②Let's chant p. 27 ③Lucky card game				○色や形、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。 【行動観察・振り返りカード】
3	■色や形など、身の回りの物の言い方に慣れ親しみ、欲しいものを尋ねたり答えたりする。 ①Let's chant p. 27				○色や形、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。 【行動観察・振り返りカード】

	②Let's listen p. 29 ③・マッチングゲーム ・これは何でしょう。				
4	■学級の友達に感謝の気持ちを伝えるカードを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、色や形など、身の回りの物について、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。 ①Let's chant P. 27 ②Activity p. 29 ③デジタル教材を視聴し、紹介の仕方を知り次時に見通しを持つ。	やり取り	やり取り	やり取り	◎欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。【行動観察・振り返りカード】
5	■学級の友達に感謝の気持ちを伝えるカードを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、色や形など、身の回りの物について、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。 ①Let's Chants p. 27 ②Activity p. 29 ③デジタル教材で紹介の仕方を確認し、自分の作品を紹介して、カードを贈る。	やり取り	やり取り	やり取り	◎相手に伝わるように工夫しながら、自分の作品を紹介している。 【行動観察・振り返りカード】

(5) 本時の学習【2/5 時間】

展開 (第2時)

過程	学習活動・内容・発問等	予想される子どもの反応	指導上の留意点、評価等
つかむ・見通す ⑩	1. 号令・挨拶・ルール確認 3Questions How are you today? How's the weather today? What day is it today? 3Rules 1.Listen carefully. 2.Help each other. 3.Have good manners.	・" oval" " rectangle " " crescent" が難しいなあ。	児童の様子を見て、できそうなら二つ以上カードを選択して言わせる。 "orange heart and blue square"
	2. 復習 missing game 色と形フラッシュカード		

	<p>3. めあてを立てる Small talk HRT+ALT</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>HRT: Hello, Will sensei. I want some shapes. ALT: OK. What do you want? HRT: A triangle, please. ALT: Here you are. What do you want? HRT: Hmm… A blue circle, please. ALT: OK. Here you are.</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>Today's Goal 「なにがほしいですか。」 「(形) を下さい。」 のやりとりをしよう！</p> </div>		
<p>考える・深める ⑫</p>	<p>3. Let's chant ♪What do you want? 新出表現の練習</p> <p>4. メインアクティビティ Lucky card game “Hello, what do you want?” “~, please.” のやり取りを繰り返しながら、友達とカードを交換していき、最後に発表されたラッキーカードを持っていた人が「今日のラッキーさん」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一回戦 一枚ずつの交換 (形だけ言う) ・二回戦 一枚ずつの交換 (色と形を言う) ・三回戦 二枚交換もあり (色と形を言う) 	<ul style="list-style-type: none"> ・真似したら言えそう！ ・欲しいもののあとに、please をつけたらいいんだね！ ・みんなとカードを交換していくんだね。 ・だんだん早く言えるようになってきた！ ・「形」に「色」も加えて言ってみよう！ ・カードを二枚ゲットするためには、“and” を使えばいいかな。 	<p>音声のリズムをつかませる。</p> <p>○色や形, 欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。 【行動観察・振り返りカード】</p> <p>発話や暗記が苦手な児童をサポートする。</p>
<p>まとめ・振り返る ⑩</p>	<p>5. ふりかえり ふり返しシートに記入し、発表する。</p> <p>6. 挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ワッドゥーユーラン？」を聞いて、「() プリーズ。」と答えて、物のやりとりができた。 ・ほしいものを英語で聞くことができた。 	<p>学びのお手本となるふりかえりを書いた児童も指名する。</p>

5 各学年の取り組み

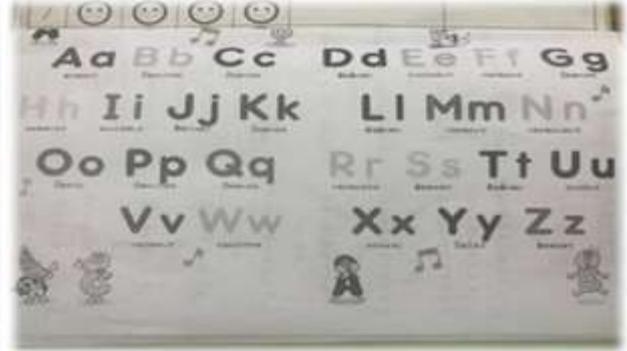
【学年共通】

“Phonics”

毎時間始めの3分に、英文字と音をつなげて覚える指導方法“Phonics”を実施。お手本を繰り返し真似て、視覚・聴覚・自分の発音をリンクさせて体得できるように取り組んでいます。



歯を合わせて
ZZ



【1年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

カードゲーム、ハロウィン、すごろく、コミュニケーション活動を通して、お友達と英語でのやり取りを楽しみながら楽しく学習することができた。



みんなでハロウィンの
仮装をしたよ♪

Trick or treat に
しゅっぱーつ!



【2年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

すごろくやカードゲーム、ドンじゃんけんゲームなど、多様な学習活動を通して、英語に慣れ親しみ、楽しく活動することができた。

“No, I don't.”

“Do you have glue stick?”



友達と話し合ったり、協力したりして楽しく活動を行いながら、目標とする力を身に付けられるように授業構成を工夫しています。



【3年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

“What's this?” の単元では、最終目標の 3 hint quiz を出すことに向けて、「色」「形」「特徴」の単語や “What's this?” “Hint 1. It's ~.” のフレーズの言い方の練習を積極的に行うことができた。また、クイズ大会でも児童が意欲的に英語クイズを出し合うことができた。

A fruits, yellow...



What's this?



3年生になると理解できる英単語量も増えてきているため、英語を活用する活動を増やすことでさらにコミュニケーション能力向上を目指します。



【4年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

“What do you want?” では、タブレットを活用しながらオリジナルピザやパフェを作成し、友達に紹介し合いながら交流することができた。



“What do you want?”
“I want～.”のやりとりをしながら、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむことができた。

“This is my pizza.
I like～,～and～.”

【5年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

タブレットを活用した授業展開：Lesson6 I want to go to Italyでは、自分の行きたい場所についてタブレット端末を使用して個別にスライドを作成し、行きたい理由も英語で伝える活動を行った。他の単元でも、道案内やメニュー表を作成するなどし、タブレットを使いながら外国語の学びを深めることができた。



Where do you want to go?



I want to go to Tokyo!



伝えたいことをどう伝えるか。「外国語」では単に英語を身に付けるだけではなくコミュニケーション能力の素地を養います。

【6年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

Lesson 7 「My Best Memory」では、単元のゴールを「友達と小学校の最高の思い出について伝え合おう」と設定した。ここでは、My Best Memoryとして、運動会や修学旅行などの学校行事を答えるだけでなく、自分にとって最高の思い出である理由を考え、同じ行事を選んだとしても、一人一人印象に残っている場面が違ったり、その時の気持ちがあったりする。このように自分の思いを互いに伝え合う活動を通して、自分自身の考えを深め、どのように表現したらよいか、児童同士が互いに助け合いながら取り組むことができた。



単元を通してスモールステップで学び、様々なペアで練習を重ねながら、自分なりにどのように表現できるか学びました。

話す側は、相手意識を持ち、内容や伝え方を考えて自分の意見を相手に伝えます。聞く側は、聞き方(あいづちやリアクション、質問など)を意識します。目的を明確にした「やりとり」を通して、英語コミュニケーションが身に付いてきました。



タブレットの Meet 機能を使い、他校の児童とオンラインで交流した。グループに分かれてお互いにこれまでに学んで事を生かして、自分の考えや気持ちを伝えようとする姿が見られた。

(3) 成果と課題

低学年

- ALTとの口の動きを一生懸命観察して真似ようとしていた。
- 活動内容や教材の工夫がされているので、楽しんで英語に触れることができた。
- ゲームの種類が豊富で、楽しみながら英語を学習することができた。
- 毎時間フォニックスを練習しているおかげで、単語を見ると声に出して読んでみようとする児童が増えた。
- 前年度（1年～2年）の学習内容を系統立てて学習しているため、単語を覚えている子が多い。
- 全体交流前の口頭練習だけでは単語を覚えることが不十分で、全体交流でゲームをしても、英語で言えない児童がいる。
- ゲームに夢中になり、主旨がずれたり、英語で話したりすることを忘れてしまう。

中学年

- 1時間の流れが決まっており、児童も課題意識を持ちながら学習に取り組むことができた。
- 全体交流の前にペアで練習することで、全体交流でも活発に関わり合う様子が見られた。
- 毎時間、前時のふり返りを取り入れたり、スモールステップで学習を積み重ねたりする指導計画により、学習内容が定着している。
- アクティビティの時間がしっかり確保され、本時の言語材料を活用しながら交流することができた。
- ICT機器を活用することにより、児童の興味や意欲を高め、交流活動につなげることができた。
- 言語材料の習得に個人差があり、交流活動への意欲の低下や、外国語学習に対する抵抗に繋がっている。
- マスク着用の児童がしっかり英語で活動できているのかが分かりにくく、形成評価がしにくい。
- 授業中は理解しているように見えるが、しっかり定着しているかどうかは分かりづらい。

高学年

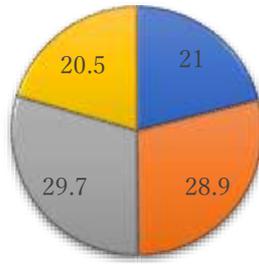
- フォニックスを練習することで、単語を読む力がついた。
- 教師は、相手に分かりやすく伝えるために、話し方と話す内容の工夫をするよう指導した。児童は、相手の理解を確認しながらはっきり話すこと、相手の立場や考えに合わせて話す内容を考えることの必要性に気づくことができた。
- 教師が単元計画と単元のゴールを示すことで、友達とのやり取りを通して自分の考えを広げたり、表現の仕方を考えたりすることができた。
- 単元によって難しい単語や表現があり、苦手を感じる児童が見られた。
- 日常生活や他の教科で学んだことをつなげることができず、自分の考えや気持ちを表現することが難しい児童がいる。

(4) 課題に対する対応策

- ・ゲームのルールをしっかり理解させてから活動に取り組みせ、適宜声掛けをする。
- ・授業の最後に学習内容のフォローアップを行い、難しい単語やフレーズを再度HRT／ALTと確認する。
- ・HRTとALTが連携し、困っている児童のフォローに入ったり、ペアを工夫したりする。
- ・タブレットを活用した言語材料の反復練習や、ゲーム形式の学習の導入を行う。
- ・児童にとって難しいと思われる単元は、予定時数より多く時間をかけて理解を深めさせる。
- ・委員会からの形成評価だけでなく、既習フレーズの会話チェックなどを学期に1回程度実施し、サポートが必要な児童を明確に把握する。

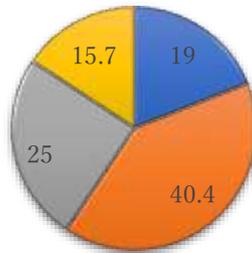
5. 外部評価

お子さんは学校の英語の授業について話をする。



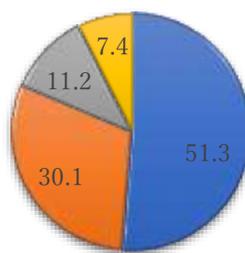
■とてもあてはまる ■ややあてはまる ■ややあてはまならない ■あてはまらない

お子さんは英語の授業がよくわかると言っている。



■とてもあてはまる ■ややあてはまる ■ややあてはまならない ■あてはまらない

英語の授業がよくわかる。(児童アンケート)



■とてもあてはまる ■ややあてはまる ■ややあてはまならない ■あてはまらない

英語に関する保護者の意見として、「お子さんは学校の英語の授業について話をする。」という質問に対して「とてもあてはまる」「ややあてはまる」と答えたのは、全体の 49.9%であった。また「お子さんは英語の授業がよくわかると言っている。」という質問に対して「とてもあてはまる」「ややあてはまる」と答えたのは全体の 59.4%であった。今年度は児童アンケートも実施した結果、「英語の授業がよくわかる」という質問に対して「とてもあてはまる」「ややあてはまる」と答えたのは、全体の 81.4%であった。この結果から、ほとんどの児童が英語学習に意欲的に取り組み、学習内容を理解をしていることがわかった。一方で、英語の理解が難しい児童や苦手意識のある児童も一定数いることがわかった。